

科目名	生涯学習概論		
担当教員名	井口 啓太郎		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

1 科目の性格

本科目は図書館法に定める、司書免許取得に必要な科目の、甲群 (必修) の科目に対応する。

2 科目の概要

本科目は、生涯学習や社会教育の生まれた背景を探りながら、情報化社会・高齢化社会の中で、この二者が果たす役割について理解し、併せて、これからの図書館に求められる新しい役割を考察することを目的とする。

3 学修目標

本科目の学修目標は以下の3点である。「生涯学習」の概念について正しく理解することができる。我が国の生涯学習政策について認識を深める。これからの図書館が担って行くべき課題を捉えることができる。生涯学習の将来的課題の意識を醸造する。

内容

- 1 生涯学習・生涯教育論の歴史的展開
- 2 生涯学習の実際 埼玉県内における生涯学習の展開事例
- 3 生涯学習社会における家庭教育・学校教育・社会教育の役割と連携
- 4 生涯学習振興政策の立案と推進
- 5 教育の原理と我が国における社会教育の意義・発展・特質
- 6 社会教育行政の意意・役割と一般行政との連携
- 7 自治体の行財政制度と教育関連法規
- 8 成人学習に関するハンブルク宣言と諸外国における生涯学習の展開事例
- 9 社会教育の内容・方法・形態 (1) アンドラゴジー論とアウトリーチの方法
- 10 社会教育の内容・方法・形態 (2) 成人における知的能力の変化とエイジング
- 11 社会教育の内容・方法・形態 (3) 高齢化・情報化の社会環境
- 12 学習への支援と学習成果の評価と活用
- 13 社会教育施設・生涯学習関連施設の管理・運営と連携
- 14 社会教育指導者の役割
- 15 まとめ

評価

小テスト50：筆記試験50の比率で評価 (100点満点) し、合計60点以上を単位認定する。合格点に満たなかった場合は、「再試験」を行う。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【テキスト】 テキストは使用せず、毎回の授業でプリントを配布する。

【参考図書】 授業中に随時紹介する。

科目名	図書館概論		
担当教員名	石川 敬史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書課程		
学 年	1,4	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は図書館司書資格取得のための課程において入門的な役割を果たし、図書館の意義や役割をはじめ、歴史、利用者、司書、類縁機関等、館種別図書館の幅広い基礎知識を確実にするための科目として位置づけられる。よって、初年次(1年生)に履修することを薦める。

科目の概要

現代社会の中で図書館は、どのような意義があり、どのような役割や機能を有するのか。そして、図書館司書には、どのような可能性があるのか。本科目では、図書館の役割や機能、図書館司書の仕事等について考え、「図書館を考える行なう」を目標に受講生とともに図書館をデザインする。

学修目標

授業時の講義内容の理解とともに、場合によって受講者同士の議論やミニワークショップを行ない、他の受講生の意見や考えを踏まえ、自らの意見や考えをまとめること。

- ・ 図書館の基本的機能と役割、館種等、図書館という仕組み(システム)を理解する。
- ・ 図書館が置かれている社会的背景(歴史、制度、機能、メディア、情報化)を理解する。
- ・ 図書館司書の具体的な仕事内容とその役割を理解する。
- ・ 図書館の未来について自分なりの考えをまとめることができる。

内容

1	オリエンテーション：本科目の進め方、図書館司書課程全体の授業構成
2	図書館の理念・社会的意義：図書館の構成要素と機能
3	図書館の種類と相互協力：類縁機関を含む
4	図書館の現状と動向：図書館の機能・役割を考える
5	図書館の自由
6	図書館司書の仕事(1)：司書の役割・業務モデル、専門性、資格・関係団体
7	図書館司書の仕事(2)：図書館サービスの種類・利用者のニーズ
8	情報リテラシー教育：「図書館」をどのようにツタエルか
9	学校図書館の可能性
10	大学図書館の役割
11	公共図書館の機能と役割：図書館法規・行政・政策、地域社会と図書館
12	公立図書館の機能と役割を考える
13	図書館の歴史：欧米の公立図書館、国内大学図書館等
14	図書館の未来をデザインする：図書館の課題と展望
15	まとめ

評価

授業中・後の課題作成（30％），授業への参画・発表の姿勢（20％），試験（50％）とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

塩見昇『図書館概論』日本図書館協会，2012（JLA図書館情報学テキストシリーズ ， 1）

【参考図書】

- ・日本図書館協会図書館ハンドブック編集委員会『図書館ハンドブック』第6版補訂版，日本図書館協会，2010
- ・日本図書館協会『市民の図書館』増補版，日本図書館協会，1976
- ・日本図書館協会『中小都市における公共図書館の運営』日本図書館協会，1973
- ・前川恒雄，石井敦『新版図書館の発見』日本放送出版協会，2006（NHKブックス，1050）
- ・竹内慈『図書館をめざすもの』日本図書館協会，1997

その他参考図書は，授業中に紹介する。

科目名	図書館概論		
担当教員名	石川 敬史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書課程		
学 年	1,4	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は図書館司書資格取得のための課程において入門的な役割を果たし、図書館の意義や役割をはじめ、歴史、利用者、司書、類縁機関等、館種別図書館の幅広い基礎知識を確実にするための科目として位置づけられる。よって、初年次(1年生)に履修することを薦める。

科目の概要

現代社会の中で図書館は、どのような意義があり、どのような役割や機能を有するのか。そして、図書館司書には、どのような可能性があるのか。本科目では、図書館の役割や機能、図書館司書の仕事等について考え、「図書館を考える行なう」を目標に受講生とともに図書館をデザインする。

学修目標

授業時の講義内容の理解とともに、場合によって受講者同士の議論やミニワークショップを行ない、他の受講生の意見や考えを踏まえ、自らの意見や考えをまとめること。

- ・ 図書館の基本的機能と役割、館種等、図書館という仕組み(システム)を理解する。
- ・ 図書館が置かれている社会的背景(歴史、制度、機能、メディア、情報化)を理解する。
- ・ 図書館司書の具体的な仕事内容とその役割を理解する。
- ・ 図書館の未来について自分なりの考えをまとめることができる。

内容

1	オリエンテーション：本科目の進め方、図書館司書課程全体の授業構成
2	図書館の理念・社会的意義：図書館の構成要素と機能
3	図書館の種類と相互協力：類縁機関を含む
4	図書館の現状と動向：図書館の機能・役割を考える
5	図書館の自由
6	図書館司書の仕事(1)：司書の役割・業務モデル、専門性、資格・関係団体
7	図書館司書の仕事(2)：図書館サービスの種類・利用者のニーズ
8	情報リテラシー教育：「図書館」をどのようにツタエルか
9	学校図書館の可能性
10	大学図書館の役割
11	公共図書館の機能と役割：図書館法規・行政・政策、地域社会と図書館
12	公立図書館の機能と役割を考える
13	図書館の歴史：欧米の公立図書館、国内大学図書館等
14	図書館の未来をデザインする：図書館の課題と展望
15	まとめ

評価

授業中・後の課題作成（30％），授業への参画・発表の姿勢（20％），試験（50％）とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

塩見昇『図書館概論』日本図書館協会，2012（JLA図書館情報学テキストシリーズ ， 1）

【参考図書】

- ・日本図書館協会図書館ハンドブック編集委員会『図書館ハンドブック』第6版補訂版，日本図書館協会，2010
- ・日本図書館協会『市民の図書館』増補版，日本図書館協会，1976
- ・日本図書館協会『中小都市における公共図書館の運営』日本図書館協会，1973
- ・前川恒雄，石井敦『新版図書館の発見』日本放送出版協会，2006（NHKブックス，1050）
- ・竹内慈『図書館をめざすもの』日本図書館協会，1997

その他参考図書は，授業中に紹介する。

科目名	図書館経営論		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書課程		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

図書館学を建物に例えるなら「生涯学習」は、諸学のまた人生の地盤と言える。その地盤上に「図書館経営論」は必須科目として「図書館概論」「図書館資料論」などと共に、図書館像の土台や柱、壁、屋根となる。図書館はサービス組織なので、有機体の様に機能する図書館の理解には「経営」の視点が必要である。本講義はその視点から、図書館制度、政策、施設、評価調査など個別要件で探る。

科目概要

現代図書館の歴史(必要な前史)を振り返りつつ図書館業務における職員(館長)、制度、予算、施設、町おこし等の色々な面を検討していく。配布のプリントで流れとポイントを押さえていく。個別テーマの理解が、次のステップの土台となる連続性が高いので、続けて休むとレポート、テストに対応できなくなる恐れがある。焦ることはないが、あなどって休まずに努力をしてほしい。

学修目標

現代の公共サービスは、財政収縮と行革の大波の中にある。非営利組織である図書館も、利用者の多様な要求を満たし、またその発達を支える社会システムであり続ける必要がある。その為に図書館の持つ諸資源をより効果的に運用し、その成果をテコに条件そのもの(行政の諸条件等)をもさらに改善することが必要だ。このため、これまでなおざりにされがちな「経営」の視点から図書館活動を考え、基礎的知識を得る。

内容

- ・社会の変化・発展に対応できたか、できなかったかの分岐の事例を跡づけ、評価していく。
- ・配布のプリントを中心に授業を進めるが、新資料の取り入れによって一部変更があり得る。
- ・授業の各回の理解が、後の展開の基礎となる。欠席が多いと課題・試験に十分対応できなくなる。

1	ガイダンス
2	図書館経営の意味と色々な図書館
3	図書館サービスの歩み(戦後)
4	図書館サービスの前線(第一線)
5	根拠法と関係法規
6	各種法規と類縁機関
7	図書館の政策・体制
8	経営と図書館協力(1)
9	経営と図書館協力(2)
10	経営管理と図書館振興
11	建築と施設(1) 計画と配置
12	建築と施設(2) 設備と空間
13	サービス計画と評価
14	街づくりと図書館経営

評価

- ・レポート・小レポート30%、筆記試験70%。60点以上合格。
- ・再試験は基本的になし。入院等による追試験は事情による。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

参考：高山正也[ほか]共著『図書館経営論 改訂』樹村房 2011年

科目名	図書館サービス論		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書課程		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：情報技術の進展により図書館が提供するサービスにも質・量ともに変化が伴う中で、図書館は利用者のニーズに応じて、さまざまなサービスが行われている。本科目では、図書館サービスの構造、意義等の概説と特徴的な図書館サービスの事例を紹介し、将来求められる図書館サービスのあるべき姿を考える。

科目の概要：社会や利用者はどのような図書館サービスを求めているのか。他方で、図書館は社会の変化に伴い、どのようなサービスを提供しているのか。本科目では、図書館サービスの構造や意義・図書館サービスの事例を概説する。また、社会の変化に伴い、図書館サービスがどのように変化し、利用者のニーズに応じてきたのかを考察する。

学修目標：授業時の講義内容の理解とともに、受講者同士の議論やミニワークショップを行ない、他の受講生の意見や考えを踏まえ、自らの意見や考えをまとめること。

- ・図書館が提供しているさまざまなサービスを理解し、意義と方法を説明することができる。
- ・各館種による図書館サービスの特徴や違い、利用者の要望を理解し、適したサービスを整理できる。
- ・近年の図書館サービスの課題を踏まえ、将来図書館に求められるサービスについて、自分の考えをまとめることができる。

内容

1	オリエンテーション：図書館サービスとは何か？
2	図書館サービスの意義・種類（１）：利用者・館種別サービス
3	図書館サービスの意義・種類（２）：図書館サービスの発見
4	図書館サービスとマネジメント：図書館サービスの設計
5	図書館利用者調査：事例と設計
6	図書館サービスの変遷・歴史
7	資料提供・閲覧サービス
8	貸出・返却の方法
9	読書案内・ブックリストの作成
10	利用対象に応じたサービス（１）：利用者の発見，サービスの構築
11	利用対象に応じたサービス（２）：高齢者，障がい者，多文化サービス等
12	図書館の運営・業務委託
13	図書館の利用空間の創造：利用者へのコミュニケーション，図書館の広報活動を含む
14	図書館サービスの未来を考える
15	まとめ

評価

授業中・後の課題（30％），授業への参画・発表の姿勢（20％），試験（50％）とする。

【教科書】

教科書は特に指定しない。授業中に資料を配布する。

【参考書】

- ・大串夏身『課題解決型サービスの創造と展開』青弓社，2008（図書館の最前線，3）
- ・渡部幹雄『図書館を遊ぶ』新評論，2003
- ・柳与志夫『千代田図書館とは何か』ポット出版，2010
- ・丸本郁子『図書館を演出する』メディアアイランド，2010
- ・前川恒雄『貸出』日本図書館協会，1982(図書館員選書,1)
- ・『公立図書館の任務と目標：解説』改訂版，日本図書館協会，2004

その他は授業中に提示する。

科目名	情報サービス概説		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書課程		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

情報サービスの意義と種類、レファレンスサービスと情報検索サービスの方法、各種情報源の種類について理解し、それらを踏まえて、発信型情報サービスなどの新しい動向を理解して、図書館における情報サービスに関する基本的知識を修得することを目標とする。図書館における情報サービスの意義と種類、その中心であるレファレンスサービスと情報検索サービスの方法、各種情報源の種類について解説する。さらに、それらを踏まえて、発信型情報サービスと図書館利用教育について解説する。

内容

1	情報社会と図書館の情報サービス
2	情報サービスの意義と種類 (1) レファレンスサービスとレフェラルサービス
3	情報サービスの意義と種類 (2) カレントアウェアネスサービス
4	レファレンスサービスの理論 (1) 利用者の情報行動とレファレンスプロセス
5	レファレンスサービスの理論 (2) レファレンスサービスの組織・担当者とその評価
6	レファレンスサービスの実際
7	情報検索サービスの理論と方法
8	各種情報源の特質と利用法
9	各種情報源の種類と評価 (1) 参考図書
10	各種情報源の種類と評価 (2) データベース
11	各種情報源の種類と評価 (3) ネットワーク情報資源
12	各種情報源の組織化
13	発信型情報サービスの意義と方法
14	情報リテラシーの育成と図書館利用教育
15	まとめ

評価

レポート (10%) と筆記試験 (80%) と通常の授業態度 (10%) により評価を行う。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】中西裕 [ほか] 『情報サービス論及び演習』、ライブラリー図書館情報学6、学文社、2012年

【参考図書】教室で紹介する。

科目名	レファレンスサービス演習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書課程		
学 年		ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

図書館におけるレファレンスサービスは図書館員の専門性と力量が求められる業務である。その実務的能力育成のために講義科目「情報サービス」と演習科目「レファレンスサービス演習」の2科目が設けられている。講義科目「情報サービス論」を修得の上での本講受講が望ましい。

科目の概要

レファレンスサービスは、情報を求めている人々に直接行う個人的 (人的) 援助と、できるだけ情報を利用しやすくすることを目的とする利用援助に大別できる。本科目は、講義科目「情報サービス論」の学修をふまえ、その内容を具体的・実践的に展開し、情報サービス (レファレンスサービス) の実務的能力の修得をめざす。

学修目標

- ・レファレンスサービスの重要性を理解する。
- ・参考質問の受付から回答・事後処理に至るプロセスを実践的に理解する。
- ・回答のための各種参考図書・各種データベースの特性と利用方法を理解する。
- ・情報探索能力の体得を図る。
- ・レファレンスインタビューの方法を体得し、能力の向上を図る。

内容

1	レファレンスサービスの意義とライブラリアンの活動
2	レファレンスサービスのプロセス
3	レファレンスコレクションの活用
4	各種データベースの検索演習
5	外部情報機関の活用
6	レファレンス課題による検索実習 (1)
7	検索結果の発表 (1)
8	レファレンス課題による検索実習 (2)
9	検索結果の発表 (2)
10	レファレンス事例の収集・蓄積
11	レファレンス事例の分析
12	レファレンスインタビューの方法
13	レファレンスインタビューの実際 質問と回答
14	レファレンスサービスと他の図書館サービス
15	情報サービスの評価

評価

演習レポートおよび発表40%、授業への参加意欲と態度20%、理解度確認のための論述レポート40%

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業の際に必要な応じて指示する。

科目名	レファレンスサービス演習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書課程		
学 年		ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

図書館におけるレファレンスサービスは図書館員の専門性と力量が求められる業務である。その実務的能力育成のために講義科目「情報サービス」と演習科目「レファレンスサービス演習」の2科目が設けられている。講義科目「情報サービス論」を修得の上での本講受講が望ましい。

科目の概要

レファレンスサービスは、情報を求めている人々に直接行う個人的 (人的) 援助と、できるだけ情報を利用しやすくすることを目的とする利用援助に大別できる。本科目は、講義科目「情報サービス論」の学修をふまえ、その内容を具体的・実践的に展開し、情報サービス (レファレンスサービス) の実務的能力の修得をめざす。

学修目標

- ・レファレンスサービスの重要性を理解する。
- ・参考質問の受付から回答・事後処理に至るプロセスを実践的に理解する。
- ・回答のための各種参考図書・各種データベースの特性と利用方法を理解する。
- ・情報探索能力の体得を図る。
- ・レファレンスインタビューの方法を体得し、能力の向上を図る。

内容

1	レファレンスサービスの意義とライブラリアンの活動
2	レファレンスサービスのプロセス
3	レファレンスコレクションの活用
4	各種データベースの検索演習
5	外部情報機関の活用
6	レファレンス課題による検索実習 (1)
7	検索結果の発表 (1)
8	レファレンス課題による検索実習 (2)
9	検索結果の発表 (2)
10	レファレンス事例の収集・蓄積
11	レファレンス事例の分析
12	レファレンスインタビューの方法
13	レファレンスインタビューの実際 質問と回答
14	レファレンスサービスと他の図書館サービス
15	情報サービスの評価

評価

演習レポートおよび発表40%、授業への参加意欲と態度20%、理解度確認のための論述レポート40%

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業の際に必要なに応じて指示する。

科目名	レファレンスサービス演習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書課程		
学 年		ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

図書館におけるレファレンスサービスは図書館員の専門性と力量が求められる業務である。その実務的能力育成のために講義科目「情報サービス」と演習科目「レファレンスサービス演習」の2科目が設けられている。講義科目「情報サービス論」を修得の上での本講受講が望ましい。

科目の概要

レファレンスサービスは、情報を求めている人々に直接行う個人的 (人的) 援助と、できるだけ情報を利用しやすくすることを目的とする利用援助に大別できる。本科目は、講義科目「情報サービス論」の学修をふまえ、その内容を具体的・実践的に展開し、情報サービス (レファレンスサービス) の実務的能力の修得をめざす。

学修目標

- ・レファレンスサービスの重要性を理解する。
- ・参考質問の受付から回答・事後処理に至るプロセスを実践的に理解する。
- ・回答のための各種参考図書・各種データベースの特性と利用方法を理解する。
- ・情報探索能力の体得を図る。
- ・レファレンスインタビューの方法を体得し、能力の向上を図る。

内容

1	レファレンスサービスの意義とライブラリアンの活動
2	レファレンスサービスのプロセス
3	レファレンスコレクションの活用
4	各種データベースの検索演習
5	外部情報機関の活用
6	レファレンス課題による検索実習 (1)
7	検索結果の発表 (1)
8	レファレンス課題による検索実習 (2)
9	検索結果の発表 (2)
10	レファレンス事例の収集・蓄積
11	レファレンス事例の分析
12	レファレンスインタビューの方法
13	レファレンスインタビューの実際 質問と回答
14	レファレンスサービスと他の図書館サービス
15	情報サービスの評価

評価

演習レポートおよび発表40%、授業への参加意欲と態度20%、理解度確認のための論述レポート40%

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業の際に必要な応じて指示する。

科目名	情報検索演習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書課程		
学 年		ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

あらゆる人々の活動において多様な問題があり，その解決のためには的確な情報を収集し評価する必要がある。図書館においても，デジタル情報の増加に伴い，データベースから必要な情報を検索・提供する情報検索サービスの機会が増えている。本科目では，情報検索の基礎知識とともに，利用者が必要とする情報を的確に提供するための検索スキルと情報活用能力を演習形式で修得する。

科目の概要

図書館サービスにおいて必要とされる情報検索技術を習得するために，演習形式で情報検索を行なう。本科目では，情報検索の基礎や，各図書館作成の情報源ガイドを踏まえたうえで演習を行なう。演習では，図書・雑誌・新聞記事データベース，電子ジャーナルをはじめ，インターネット上の情報源を取り上げる。また，こうした情報の総合的な理解と実践力を習得するため，毎回演習問題を行なう。

学修目標：本科目は演習形式で行なうため，図書館における情報検索の理解とともに，実践的なスキルを身につけること

- ・図書館の様々なサービスにおける情報検索の意義と，データベース構築の社会的背景を理解する。
- ・図書館の蔵書検索，雑誌記事・新聞記事の検索をはじめ多様なデジタル情報から必要な情報を検索する技術を修得する。
- ・データベースの特徴や長短を理解し，必要な情報を的確に検索し利用者へ提供できる力を修得する。

内容

1	オリエンテーション：図書館における情報検索とは？
2	情報検索の概念，図書の検索（OPAC検索）
3	書誌ユーティリティ・総合目録の検索
4	情報検索の基礎・検索戦略，検索語の性質・選択
5	雑誌タイトルの検索と所蔵検索
6	雑誌記事・論文の検索
7	雑誌記事，論文入手までのプロセス（総合演習）
8	電子ジャーナルの検索
9	海外の図書，雑誌記事・論文の検索
10	新聞記事の検索
11	さまざまな情報源（1）：人物，企業，団体情報等の検索
12	さまざまな情報源（2）：法律，統計，科学技術情報等の検索
13	パスファインダーの制作（1）：図書館の事例，リンク集の事例
14	パスファインダーの制作（2）：発表
15	まとめ

評価

授業中・後の課題（50％），授業への参画・発表の姿勢（10％），試験（40％）とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

- ・大谷康晴『情報検索演習』日本図書館協会，2011（JLA図書館情報学テキストシリーズ ，6）

【参考書】

- ・伊藤民雄『インターネットで文献探索：2010年版』日本図書館協会，2010
- ・毛利和弘『文献調査法』第5版，日本図書館協会，2012
- ・時実象一ほか『新訂情報検索の知識と技術』情報科学技術協会，2010
- ・原田智子ほか『情報検索の基礎知識』新訂2版，情報科学技術協会，2011
- ・藤田節子『キーワード検索がわかる』筑摩書房，2007（ちくま新書，685）
- ・三輪眞木子『情報検索のスキル』中央公論新社，2003（中公新書，1714）

その他授業中に提示する。

科目名	情報検索演習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書課程		
学 年		ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

あらゆる人々の活動において多様な問題があり，その解決のためには的確な情報を収集し評価する必要がある。図書館においても，デジタル情報の増加に伴い，データベースから必要な情報を検索・提供する情報検索サービスの機会が増えている。本科目では，情報検索の基礎知識とともに，利用者が必要とする情報を的確に提供するための検索スキルと情報活用能力を演習形式で修得する。

科目の概要

図書館サービスにおいて必要とされる情報検索技術を習得するために，演習形式で情報検索を行なう。本科目では，情報検索の基礎や，各図書館作成の情報源ガイドを踏まえたうえで演習を行なう。演習では，図書・雑誌・新聞記事データベース，電子ジャーナルをはじめ，インターネット上の情報源を取り上げる。また，こうした情報の総合的な理解と実践力を習得するため，毎回演習問題を行なう。

学修目標：本科目は演習形式で行なうため，図書館における情報検索の理解とともに，実践的なスキルを身につけること

- ・図書館の様々なサービスにおける情報検索の意義と，データベース構築の社会的背景を理解する。
- ・図書館の蔵書検索，雑誌記事・新聞記事の検索をはじめ多様なデジタル情報から必要な情報を検索する技術を修得する。
- ・データベースの特徴や長短を理解し，必要な情報を的確に検索し利用者へ提供できる力を修得する。

内容

1	オリエンテーション：図書館における情報検索とは？
2	情報検索の概念，図書の検索（OPAC検索）
3	書誌ユーティリティ・総合目録の検索
4	情報検索の基礎・検索戦略，検索語の性質・選択
5	雑誌タイトルの検索と所蔵検索
6	雑誌記事・論文の検索
7	雑誌記事，論文入手までのプロセス（総合演習）
8	電子ジャーナルの検索
9	海外の図書，雑誌記事・論文の検索
10	新聞記事の検索
11	さまざまな情報源（1）：人物，企業，団体情報等の検索
12	さまざまな情報源（2）：法律，統計，科学技術情報等の検索
13	パスファインダーの制作（1）：図書館の事例，リンク集の事例
14	パスファインダーの制作（2）：発表
15	まとめ

評価

授業中・後の課題（50％），授業への参画・発表の姿勢（10％），試験（40％）とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

- ・大谷康晴『情報検索演習』日本図書館協会，2011（JLA図書館情報学テキストシリーズ ，6）

【参考書】

- ・伊藤民雄『インターネットで文献探索：2010年版』日本図書館協会，2010
- ・毛利和弘『文献調査法』第5版，日本図書館協会，2012
- ・時実象一ほか『新訂情報検索の知識と技術』情報科学技術協会，2010
- ・原田智子ほか『情報検索の基礎知識』新訂2版，情報科学技術協会，2011
- ・藤田節子『キーワード検索がわかる』筑摩書房，2007（ちくま新書，685）
- ・三輪眞木子『情報検索のスキル』中央公論新社，2003（中公新書，1714）

その他授業中に提示する。

科目名	情報検索演習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書課程		
学 年		ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

あらゆる人々の活動において多様な問題があり，その解決のためには的確な情報を収集し評価する必要がある。図書館においても，デジタル情報の増加に伴い，データベースから必要な情報を検索・提供する情報検索サービスの機会が増えている。本科目では，情報検索の基礎知識とともに，利用者が必要とする情報を的確に提供するための検索スキルと情報活用能力を演習形式で修得する。

科目の概要

図書館サービスにおいて必要とされる情報検索技術を習得するために，演習形式で情報検索を行なう。本科目では，情報検索の基礎や，各図書館作成の情報源ガイドを踏まえたうえで演習を行なう。演習では，図書・雑誌・新聞記事データベース，電子ジャーナルをはじめ，インターネット上の情報源を取り上げる。また，こうした情報の総合的な理解と実践力を習得するため，毎回演習問題を行なう。

学修目標：本科目は演習形式で行なうため，図書館における情報検索の理解とともに，実践的なスキルを身につけること

- ・図書館の様々なサービスにおける情報検索の意義と，データベース構築の社会的背景を理解する。
- ・図書館の蔵書検索，雑誌記事・新聞記事の検索をはじめ多様なデジタル情報から必要な情報を検索する技術を修得する。
- ・データベースの特徴や長短を理解し，必要な情報を的確に検索し利用者へ提供できる力を修得する。

内容

1	オリエンテーション：図書館における情報検索とは？
2	情報検索の概念，図書の検索（OPAC検索）
3	書誌ユーティリティー・総合目録の検索
4	情報検索の基礎・検索戦略，検索語の性質・選択
5	雑誌タイトルの検索と所蔵検索
6	雑誌記事・論文の検索
7	雑誌記事，論文入手までのプロセス（総合演習）
8	電子ジャーナルの検索
9	海外の図書，雑誌記事・論文の検索
10	新聞記事の検索
11	さまざまな情報源（1）：人物，企業，団体情報等の検索
12	さまざまな情報源（2）：法律，統計，科学技術情報等の検索
13	パスファインダーの制作（1）：図書館の事例，リンク集の事例
14	パスファインダーの制作（2）：発表
15	まとめ

評価

授業中・後の課題（50％），授業への参画・発表の姿勢（10％），試験（40％）とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

- ・大谷康晴『情報検索演習』日本図書館協会，2011（JLA図書館情報学テキストシリーズ ，6）

【参考書】

- ・伊藤民雄『インターネットで文献探索：2010年版』日本図書館協会，2010
- ・毛利和弘『文献調査法』第5版，日本図書館協会，2012
- ・時実象一ほか『新訂情報検索の知識と技術』情報科学技術協会，2010
- ・原田智子ほか『情報検索の基礎知識』新訂2版，情報科学技術協会，2011
- ・藤田節子『キーワード検索がわかる』筑摩書房，2007（ちくま新書，685）
- ・三輪眞木子『情報検索のスキル』中央公論新社，2003（中公新書，1714）

その他授業中に提示する。

科目名	情報検索演習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書課程		
学 年		ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

あらゆる人々の活動において多様な問題があり，その解決のためには的確な情報を収集し評価する必要がある。図書館においても，デジタル情報の増加に伴い，データベースから必要な情報を検索・提供する情報検索サービスの機会が増えている。本科目では，情報検索の基礎知識とともに，利用者が必要とする情報を的確に提供するための検索スキルと情報活用能力を演習形式で修得する。

科目の概要

図書館サービスにおいて必要とされる情報検索技術を習得するために，演習形式で情報検索を行なう。本科目では，情報検索の基礎や，各図書館作成の情報源ガイドを踏まえたうえで演習を行なう。演習では，図書・雑誌・新聞記事データベース，電子ジャーナルをはじめ，インターネット上の情報源を取り上げる。また，こうした情報の総合的な理解と実践力を習得するため，毎回演習問題を行なう。

学修目標：本科目は演習形式で行なうため，図書館における情報検索の理解とともに，実践的なスキルを身につけること

- ・図書館の様々なサービスにおける情報検索の意義と，データベース構築の社会的背景を理解する。
- ・図書館の蔵書検索，雑誌記事・新聞記事の検索をはじめ多様なデジタル情報から必要な情報を検索する技術を修得する。
- ・データベースの特徴や長短を理解し，必要な情報を的確に検索し利用者へ提供できる力を修得する。

内容

1	オリエンテーション：図書館における情報検索とは？
2	情報検索の概念，図書の検索（OPAC検索）
3	書誌ユーティリティ・総合目録の検索
4	情報検索の基礎・検索戦略，検索語の性質・選択
5	雑誌タイトルの検索と所蔵検索
6	雑誌記事・論文の検索
7	雑誌記事，論文入手までのプロセス（総合演習）
8	電子ジャーナルの検索
9	海外の図書，雑誌記事・論文の検索
10	新聞記事の検索
11	さまざまな情報源（1）：人物，企業，団体情報等の検索
12	さまざまな情報源（2）：法律，統計，科学技術情報等の検索
13	パスファインダーの制作（1）：図書館の事例，リンク集の事例
14	パスファインダーの制作（2）：発表
15	まとめ

評価

授業中・後の課題（50％），授業への参画・発表の姿勢（10％），試験（40％）とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

- ・大谷康晴『情報検索演習』日本図書館協会，2011（JLA図書館情報学テキストシリーズ ，6）

【参考書】

- ・伊藤民雄『インターネットで文献探索：2010年版』日本図書館協会，2010
- ・毛利和弘『文献調査法』第5版，日本図書館協会，2012
- ・時実象一ほか『新訂情報検索の知識と技術』情報科学技術協会，2010
- ・原田智子ほか『情報検索の基礎知識』新訂2版，情報科学技術協会，2011
- ・藤田節子『キーワード検索がわかる』筑摩書房，2007（ちくま新書，685）
- ・三輪眞木子『情報検索のスキル』中央公論新社，2003（中公新書，1714）

その他授業中に提示する。

科目名	図書館資料論		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書課程		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

図書館にはさまざまな資料が選択・収集・整理・保存 (管理) され、各館独自のコレクションが形成され、利用者に情報が提供されている。本科目では、図書館コレクションを形成している図書館情報資料の種類、特質、流通等を広く概説し、図書館が情報資源を選択・収集・整理・保存 (管理) する意義を考察し、利用者への提供方法をデザインする。

科目の概要

図書館には、どのような資料が収集され、どのような観点でコレクションが形成されているのか。そのためにも、図書館情報資源の特質を知り、図書館の館種や利用者のニーズも踏まえる必要がある。本科目では、図書館業務に必要な図書館情報資源の類型と特質、電子資料やネットワーク情報資源の動向を概説する。そして、コレクション形成を具体的に考え、利用者へ提供する方法をデザインする。

学修目標

授業時の講義内容の理解とともに、受講者同士の議論やミニワークショップを行ない、他の受講生の意見や考えを踏まえ、自らの意見や考えをまとめること。

- ・ 図書館資料の種類や特徴、電子資料やネットワーク情報資源の長短を理解する。これらを踏まえ、図書館のコレクション構築をまとめることができる。

- ・ 学問分野別 (人文・科学技術等) に調査方法の違いを発見し、情報資源の特性を理解する。

内容

1	オリエンテーション: 図書館資料から図書館情報資源へ
2	図書館資料の類型を考える: 図書館資料の意義
3	図書館資料の種類と特質 (1) : 印刷資料の特徴を考える
4	図書館資料の種類と特質 (2) : 印刷資料の種類
5	図書館資料の種類と特質 (3) : 非印刷資料の種類と特徴
6	電子資料・ネットワーク情報資源の種類と特質
7	人文・社会・自然科学分野の情報資源の特性
8	書店と図書館: 出版・書店業界の現状
9	出版流通システム・再販制度
10	著作権を考える
11	図書館のコレクションをつくる (1) : 蔵書・コレクション構築の意義
12	図書館のコレクションをつくる (2) : 収集方針, 選書, 分担収集保存
13	図書館のコレクションをつくる (3) : コレクション管理, 除籍
14	図書館のコレクションをつくる (4) : コレクション構築の評価
15	まとめ

評価

授業中・後の課題（30％），授業への参画・発表の姿勢（20％），試験（50％）とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

- ・馬場俊明『図書館情報資源概論』日本図書館協会，2012（JLA図書館情報学テキストシリーズ ， 8 ）

【参考書】

- ・三浦逸雄，根本彰『コレクションの形成と管理』雄山閣，1993（講座図書館の理論と実際， 2 ）
- ・『図書館の自由に関する宣言1979年改訂：解説』第2版，日本図書館協会，2004
- ・『公立図書館の任務と目標：解説』改訂版，日本図書館協会，2004
- ・安井一徳『図書館は本をどう選ぶか』勁草書房，2006（図書館の現場， 5 ）

その他，授業中に提示する。

科目名	資料組織論		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書課程		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

書誌コントロール、書誌記述法、主題分析、メタデータ、書誌データの活用法などについて理解する。それにより図書館情報資源の組織化に関する理論と技術を理解することを目標とする。印刷資料・非印刷資料・電子資料及びネットワーク情報資源により構成される図書館情報資源の組織化について、その理論と技術を解説する。具体的には、書誌コントロール、書誌記述法、主題分析、メタデータ、書誌データの活用法などの角度から解説する。

内容

1	情報資源組織化の意義と理論
2	書誌コントロールと標準化
3	書誌記述法の概説と主要な書誌記述規則 (1)
4	書誌記述法の概説と主要な書誌記述規則 (2)
5	主題分析の意義と考え方
6	主題分析と分類法 (1)
7	主題分析と分類法 (2)
8	主題分析と索引法 (1)
9	主題分析と索引法 (2)
10	書誌情報の作成と流通
11	書誌情報の提供について
12	ネットワーク情報資源の組織化とメタデータ
13	多様な情報資源の組織化 (1)
14	多様な情報資源の組織化 (2)
15	まとめ

評価

レポート(10%)と筆記試験(80%)と通常の授業態度(10%)により評価を行う。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】田窪直規編『情報資源組織論』(現代図書館情報学シリーズ9、樹村房)

【参考図書】教室で紹介する。

科目名	資料組織演習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書課程		
学 年		ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

現在、目録の対象が紙資料からあらゆる情報資源に拡がり、目録をめぐる状況は大きく変化している。図書館業務において、資料・情報の組織化は図書館サービスの業務基盤となるものである。また今日の情報化社会において、情報資源の適切な組織化と発信は、情報共有化の基盤でもある。

情報資源組織化の原則、規則は国際的に改訂が行われているが、『日本目録規則』の改訂はまだなので、本科目では現在の目録法と分類法によって資料組織化の基本を学び、メタデータの作成等によって新しい目録概念を学ぶことを目指す。

- ・「情報資源組織論」を履修してあること。
- ・数多くの演習を通して学習することで、ツールの構成と利用法を理解し、資料組織化業務の基礎を習得する。
- ・演習課題をきちんと提出し、よく復習すること。

内容

【受講制限】人数による受講制限を行うので、留意すること。

< 前期：目録法 >

導入、目録法の構造、目録規則の標準化、ISBD区切り記号法

記述総則、タイトルと責任表示

版、出版等

形態、シリーズ

注記、標準番号

標目、片かな表記法

典拠コントロール、書誌ユーティリティの利用

集中化・共同化による書誌データ作成

ネットワーク情報資源のメタデータ作成

まとめ

< 後期：分類法 >

主題アクセス、『日本十進分類法 (NDC)』の構成

分類記号の付与、補助表、形式区分

地理区分、海洋区分

言語区分、言語共通区分、文学共通区分

分類規程

歴史・伝記・地理分野

言語分野、文学分野

社会科学分野

主題分析と統制語彙適用

総合演習問題

まとめ

評価

授業への取組み・演習課題3割、ペーパーテスト7割で評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は、「再試験」を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】吉田憲一編『資料組織演習』（JLA図書館情報学テキストシリーズ ；10）日本図書館協会

【参考資料】必要に応じてプリントを配布する。

科目名	資料組織演習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書課程		
学 年		ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

現在、目録の対象が紙資料からあらゆる情報資源に拡がり、目録をめぐる状況は大きく変化している。図書館業務において、資料・情報の組織化は図書館サービスの業務基盤となるものである。また今日の情報化社会において、情報資源の適切な組織化と発信は、情報共有化の基盤でもある。

情報資源組織化の原則、規則は国際的に改訂が行われているが、『日本目録規則』の改訂はまだなので、本科目では現在の目録法と分類法によって資料組織化の基本を学び、メタデータの作成等によって新しい目録概念を学ぶことを目指す。

- ・「情報資源組織論」を履修してあること。
- ・数多くの演習を通して学習することで、ツールの構成と利用法を理解し、資料組織化業務の基礎を習得する。
- ・演習課題をきちんと提出し、よく復習すること。

内容

【受講制限】人数による受講制限を行うので、留意すること。

< 前期：目録法 >

導入、目録法の構造、目録規則の標準化、ISBD区切り記号法

記述総則、タイトルと責任表示

版、出版等

形態、シリーズ

注記、標準番号

標目、片かな表記法

典拠コントロール、書誌ユーティリティの利用

集中化・共同化による書誌データ作成

ネットワーク情報資源のメタデータ作成

まとめ

< 後期：分類法 >

主題アクセス、『日本十進分類法 (NDC)』の構成

分類記号の付与、補助表、形式区分

地理区分、海洋区分

言語区分、言語共通区分、文学共通区分

分類規程

歴史・伝記・地理分野

言語分野、文学分野

社会科学分野

主題分析と統制語彙適用

総合演習問題

まとめ

評価

授業への取組み・演習課題3割、ペーパーテスト7割で評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は、「再試験」を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】吉田憲一編『資料組織演習』（JLA図書館情報学テキストシリーズ ；10）日本図書館協会

【参考資料】必要に応じてプリントを配布する。

科目名	児童サービス論		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-司書課程		
学 年		ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目のねらい

図書館司書資格を取得したい学生に向けての必修科目である。公共図書館に不可欠なサービスとして位置づいている児童図書館サービスについて解説する。

児童図書館サービスとは、児童奉仕とも呼ばれ、子どもを対象として、児童図書館の目的を達成する為に行われる仕事全般を指している。子どもの利用者に向かって直接行うサービスのみでなく、管理運営、施設の環境整備、資料の選択収集、さまざまなサービスの企画・遂行、館外との協力・連携、さらにこれらサービスの広報活動までが含まれる。以上のような仕事を理解することをねらいとする。

科目の概要・到達目標

子どもへの図書サービスの特質性、重要性を、子どもの発達ならびに学習の見地から解説する。乳幼児に向けたブック・スタートから、思春期のヤング・アダルトに向けたサービスまで、児童資料を紹介しながら具体的に言及していく。また、子どもの年齢や興味関心による児童資料の提供の仕方を、紙芝居、読み語り、ブック・トークなどの演習を交えて指導する。学校教育場面のみならず家庭や社会生活場面での子どもと本との関わり合い方を視野に入れて、読書による人間教育について深く洞察することができる専門性を伝達したい。

内容

授業計画

- 第1回 子どもにとって読書とは何か
- 第2回 子どもの認知発達と読書能力
- 第3回 子どもの読書活動の歴史（児童図書館の歴史）
- 第4回 児童図書館の見学
- 第5回 児童資料の種類と選書規準
- 第6回 紙芝居の選び方について
- 第7回 紙芝居の演じ方
- 第8回 絵本の選書について
- 第9回 絵本の読み方
- 第10回 （狭義の）児童文学の選書について
- 第11回 読み語り、ブック・トーク、ストーリー・テリングの仕方
- 第12回 ヤング・アダルト文学の選書について
- 第13回 学習支援としての児童図書館サービス
- 第14回 児童図書館サービスの意義と実際の活動（地域・家庭・学校との連携・協力など）
- 第15回 児童図書館員の専門性

評価

授業への取り組み方 20%、レポート成績 80% で評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『児童サービス論』 高山正也・植松貞夫 監修 樹村房

科目名	児童サービス論		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書課程		
学 年		ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

司書課程には「図書館サービス」に関する科目が4科目ある。その中で本講は利用対象を児童（乳幼児から中学高校生のヤングアダルトまで）に限定し、そのサービスのあり方等について修得する。

科目の概要

公共図書館における児童サービスは、多くの場合子どもが初めて受ける図書館サービスであり、成人を対象にしたサービスとは異なる固有の使命と方法をもっている。また、中学・高校の世代に対する図書館サービスは、児童サービスに比べると、まだまだ未発達であり、児童と成人の中間にあって置き去りにされているきらいがある。本講では児童サービス、およびヤングアダルトサービスのもつ重要性について認識を深め、固有の活動内容、方法についての知識と技術を体得することを目指す。

学修目標

- ・児童（乳幼児からヤングアダルトまで）サービスの成立過程及びその意義・役割・特性を理解する。
- ・児童資料の種類とその特性を理解する。
- ・児童図書館の運営・施設・設備のあり方を学ぶ。
- ・児童サービスの実務・技術・方法を体得する。
- ・乳幼児サービス・ヤングアダルトサービスの意義と具体的な展開方法を体得する。
- ・児童サービス（乳幼児サービス・ヤングアダルトサービス含む）の課題を考える。

内容

1	児童サービスの意義
2	児童図書館員の役割
3	児童サービスの成立と変遷
4	児童サービスの現在
5	児童資料の種類と特性
6	児童資料の収集と管理
7	児童図書館の運営
8	児童図書館施設・設備
9	児童サービスの内容
10	児童サービスの実務
11	児童サービスの技術と方法
12	乳幼児サービスの意義と展開（ブックスタートを含む）
13	ヤングアダルトサービスの意義と展開
14	各種諸機関（地域の他の図書館・文庫・学校図書館等）との連携・協力のあり方
15	児童サービス（乳幼児サービス・ヤングアダルトサービス含む）の課題

評価

授業の進行に応じて提出を求める小レポート40%、授業への参加姿勢とその態度20%、課題「理想の児童図書館」制作40%

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業の際に必要な応じて指示する。

科目名	図書及び図書館史		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書課程		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

司書課程を学び始める学生に、人類の叡智はどのように表現され蓄積されてきたかを学ぶことで、人類の素晴らしさを感じ取ってもらいたい。

図書館は、メディアの進歩と社会との関わりのなかで発展し、形態を変えてきた。現在、図書館は大きな変革期にあるが、原点に立ち返り歴史を学ぶことで、現代社会において図書館が果たすべき機能と役割についても考えるきっかけとする。

- ・集中講義なので、各時間ごとに学んだ内容をまとめ提出することで、学習内容の確認を行う。
- ・一気に進むので、予め教科書を一読しておくこと。

内容

導入、文字及び記録媒体・印刷技術の歴史

古代の図書館：図書館の起源、アレクサンドリア図書館、古代ローマの図書館

中世の図書館：修道院図書館、大学図書館

近世の図書館（15～16世紀）：グーテンベルクの活版印刷術、ルネサンス時代の図書館

近世の図書館（17～18世紀）：啓蒙の時代、図書館思想の登場、大衆読書の時代

近代の図書館（19世紀）：貸本屋・会員制図書館、公共図書館、国立図書館、各館種・機能の確立

20世紀の図書館：文献生産量の増大化、国内・国際図書館協力、情報化社会の到来、電子図書館

～ 日本の図書館の歴史：古代の図書館～現代の図書館

まとめ （時間の都合がつけば印刷の歴史を見学）

評価

学習内容のまとめ（提出物）を3割、試験を7割で評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

寺田光孝編『図書及び図書館史』（新・図書館学シリーズ 12）樹村房

プリント（授業のレジュメ）を毎回配布する。

科目名	図書館制度・経営論		
担当教員名	西来路 秀彦		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書課程		
学 年	1,4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

図書館学を建物に例えるなら「生涯学習」は、諸学のまた人生の地盤と言える。その地盤上に「図書館制度・経営論」は必須科目として「図書館概論」「図書館資料論」などと共に、図書館像の柱、壁や屋根となる。有機体の様に機能する図書館を理解するには、その活動への「経営」の視点が必要である。本講義はその視点から、図書館制度、政策、施設、評価調査など個別要件で探る。

科目概要

現代図書館の歴史(必要な前史)を振り返りながら、図書館業務における職員(館長)、制度、予算、施設、町おこし等の色々な面を検討していく。配布のプリントで流れとポイントを押さえていく。個別テーマの理解が、次のステップの土台となる連続性が高いので、続けて休むとレポート、テストに対応できなくなる恐れがある。あせることはないが、侮って休まずに努力をしてほしい。

学修目標

現代の公共サービスは、財政収縮と行革の大波の中にある。非営利組織である図書館も、利用者の多様な要求を満たし、またその発達を支える社会システムであり続ける必要がある。その為に図書館の持つ諸資源をより効果的に運用し、その成果をテコに条件そのもの(行政の諸条件等)をもさらに改善することが必要だ。このため、これまでなおざりにされがちな「経営」の視点から図書館活動を考え、基礎的知識を得る。

内容

- ・社会の変化・発展に対応できたか、できなかったかの分岐の事例を跡づけ、評価していく。
- ・配布のプリントを中心に授業を進めるが、新資料の取り入れによって一部変更があり得る。
- ・授業の各回の理解が、後の展開の基礎となる。欠席が多いと課題・試験に十分対応できなくなる。

1	ガイダンス
2	図書館経営の意味と色々な図書館
3	図書館サービスの歩み(戦後)
4	図書館サービスの前線(第一線)
5	根拠法と関係法規
6	各種法規と類縁機関
7	図書館の政策・体制
8	経営と図書館協力(1)
9	経営と図書館協力(2)
10	経営管理と図書館振興
11	建築と施設(1) 計画と配置
12	建築と施設(2) 設備と空間
13	サービス計画と評価
14	街づくりと図書館経営

評価

- ・レポート・小レポート30%、筆記試験70%。60点以上合格。
- ・再試験は基本的になし。入院等による追試験は事情による。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

参考：高山正也[ほか]共著『図書館経営論 改訂』樹村房 2011年

科目名	図書館情報技術論		
担当教員名	石川 敬史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修 *
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：多くの図書館では、利用者への確に情報を提供するために、資料の登録やデータ管理をはじめ、OPACシステムを伴う図書館システムを導入している。さらに、貴重書の保存・整理・公開を目的に、資料をデジタル化し、公開している図書館もある。このように、近年の図書館業務には、図書館システムや情報技術の知識が欠かせない。本科目では、図書館業務を通じた情報技術を修得したうえで、図書館情報システム等の設計仕様を考え、図書館サービスをデザインする。

科目の概要：本科目では、図書館業務で必要とされる基礎的な情報技術について、具体的事例を交えながら修得する。さらに、図書館システムや図書館ホームページ、デジタルアーカイブの仕組みを通して、コンピュータシステム・ネットワーク(セキュリティ含)をはじめとした情報技術を取り上げる。そして、これらの情報技術を活用した情報システムの仕様書を取りまとめ、未来の図書館情報技術を考察する。

学修目標：授業時の講義内容の理解とともに、場合によっては、受講者同士の議論やミニワークショップを行ない、他の受講生の意見や考えを踏まえ、自らの意見や考えをまとめること。

- ・図書館システムやデジタルアーカイブの仕組みを通して、図書館情報技術の基礎を理解すること。
- ・図書館ホームページやインターネット検索、電子資料の管理を理解すること。
- ・図書館システムやデジタルアーカイブの意義を理解し、情報技術を踏まえ仕様書を作成できること。

内容

1	オリエンテーション：図書館における情報機器とは？
2	図書館の情報機器：各館種における先導的事例
3	コンピュータシステムの管理(1)：全体像・意義
4	コンピュータシステムの管理(2)：セキュリティ・障害・データ管理
5	図書館システムの構築(1)：情報機器の配置，ネットワークの基礎
6	図書館システムの構築(2)：業務システムの設計
7	図書館システムの構築(3)：OPACシステム，新しいWebサービス
8	図書館システムの構築(4)：仕様書・要件定義の整理
9	インターネット検索の基礎：検索エンジンの仕組みを含む
10	情報技術の活用(目録)：書誌コントロール，総合目録
11	電子図書館論：電子書籍，レファレンスサービス等
12	デジタルアーカイブの設計(1)：概論，事例
13	デジタルアーカイブの設計(2)：目的，対象，方法，類型
14	デジタルアーカイブの設計(3)：利用，評価
15	まとめ

評価

授業中・後の課題（30％）、授業への参画・発表の姿勢（20％）、試験（50％）とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

教科書は特に指定しない。授業中に資料を配布する。

【参考書】

- ・大串夏身『最新の技術と図書館サービス』青弓社，2007（図書館の最前線，2）
- ・時実象一ほか『新訂情報検索の知識と技術』情報科学技術協会，2010
- ・原田智子ほか『情報検索の基礎知識』新訂2版，情報科学技術協会，2011
- ・水越伸『21世紀メディア論』放送大学教育振興会，2011
- ・朝日崇『実践アーカイブ・マネジメント』出版文化社，2011
- ・『2005年の図書館像：地域電子図書館の実現に向けて（報告）』文部省，2000

ほか，授業時に紹介する。

科目名	図書館サービス概論		
担当教員名	石川 敬史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書課程		
学 年	2,4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：情報技術の進展により図書館が提供するサービスにも質・量ともに変化が伴う中で、図書館は利用者のニーズに応じて、さまざまなサービスが行われている。本科目では、図書館サービスの構造、意義等の概説と特徴的な図書館サービスの事例を紹介し、将来求められる図書館サービスのあるべき姿を考える。

科目の概要：社会や利用者はどのような図書館サービスを求めているのか。他方で、図書館は社会の変化に伴い、どのようなサービスを提供しているのか。本科目では、図書館サービスの構造や意義・図書館サービスの事例を概説する。また、社会の変化に伴い、図書館サービスがどのように変化し、利用者のニーズに応じてきたのかを考察する。

学修目標：授業時の講義内容の理解とともに、受講者同士の議論やミニワークショップを行ない、他の受講生の意見や考えを踏まえ、自らの意見や考えをまとめること。

- ・図書館が提供しているさまざまなサービスを理解し、意義と方法を説明することができる。
- ・各館種による図書館サービスの特徴や違い、利用者の要望を理解し、適したサービスを整理できる。
- ・近年の図書館サービスの課題を踏まえ、将来図書館に求められるサービスについて、自分の考えをまとめることができる。

内容

1	オリエンテーション：図書館サービスとは何か？
2	図書館サービスの意義・種類（1）：利用者・館種別サービス
3	図書館サービスの意義・種類（2）：図書館サービスの発見
4	図書館サービスとマネジメント：図書館サービスの設計
5	図書館利用者調査：事例と設計
6	図書館サービスの変遷・歴史
7	資料提供・閲覧サービス
8	貸出・返却の方法
9	読書案内・ブックリストの作成
10	利用対象に応じたサービス（1）：利用者の発見，サービスの構築
11	利用対象に応じたサービス（2）：高齢者，障がい者，多文化サービス等
12	図書館の運営・業務委託
13	図書館の利用空間の創造：利用者へのコミュニケーション，図書館の広報活動を含む
14	図書館サービスの未来を考える
15	まとめ

評価

授業中・後の課題（30%），授業への参画・発表の姿勢（20%），試験（50%）とする。

【教科書】

教科書は特に指定しない。授業中に資料を配布する。

【参考書】

- ・大串夏身『課題解決型サービスの創造と展開』青弓社，2008（図書館の最前線，3）
- ・渡部幹雄『図書館を遊ぶ』新評論，2003
- ・柳与志夫『千代田図書館とは何か』ポット出版，2010
- ・丸本郁子『図書館を演出する』メディアアイランド，2010
- ・前川恒雄『貸出』日本図書館協会，1982(図書館員選書,1)
- ・『公立図書館の任務と目標：解説』改訂版，日本図書館協会，2004

その他は授業中に提示する。

科目名	情報サービス論		
担当教員名	三澤 勝己		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書課程		
学 年	2,4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

情報サービスの意義と種類、レファレンスサービスと情報検索サービスの方法、各種情報源の種類について理解し、それらを踏まえて、発信型情報サービスなどの新しい動向を理解して、図書館における情報サービスに関する基本的知識を修得することを目標とする。図書館における情報サービスの意義と種類、その中心であるレファレンスサービスと情報検索サービスの方法、各種情報源の種類について解説する。さらに、それらを踏まえて、発信型情報サービスと図書館利用教育について解説する。

内容

1	情報社会と図書館の情報サービス
2	情報サービスの意義と種類 (1) レファレンスサービスとレフェラルサービス
3	情報サービスの意義と種類 (2) カレントアウェアネスサービス
4	レファレンスサービスの理論 (1) 利用者の情報行動とレファレンスプロセス
5	レファレンスサービスの理論 (2) レファレンスサービスの組織・担当者とその評価
6	レファレンスサービスの実際
7	情報検索サービスの理論と方法
8	各種情報源の特質と利用法
9	各種情報源の種類と評価 (1) 参考図書
10	各種情報源の種類と評価 (2) データベース
11	各種情報源の種類と評価 (3) ネットワーク情報資源
12	各種情報源の組織化
13	発信型情報サービスの意義と方法
14	情報リテラシーの育成と図書館利用教育
15	まとめ

評価

レポート(10%)と筆記試験(80%)と通常の授業態度(10%)により評価を行う。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】中西裕[ほか]『情報サービス論及び演習』、ライブラリー図書館情報学6、学文社、2012年

【参考図書】教室で紹介する。

科目名	情報サービス演習		
担当教員名	紺野 順子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書課程		
学 年	2,4	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選必
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

図書館における情報サービス(レファレンスサービス)は図書館員の専門性と力量が求められる業務である。その実務的能力育成のために講義科目「情報サービス」と演習科目「情報サービス演習」の2科目が設けられている。講義科目「情報サービス論」を修得の上での本講受講が望ましい。

科目の概要

情報サービスは、情報を求めている人々に直接行う個人的(人的)援助と、できるだけ情報を利用しやすくすることを目的とする利用援助に大別できる。本科目は、講義科目「情報サービス論」の学修をふまえ、その内容を具体的・実践的に展開し、情報サービス(レファレンスサービス)の実務的能力の修得をめざす。

学修目標

- ・情報サービスの重要性を理解する。
- ・参考質問の受付から回答・事後処理に至るプロセスを実践的に理解する。
- ・回答のための各種参考図書・各種データベースの特性と利用方法を理解する。
- ・情報探索能力の体得を図る。
- ・レファレンスインタビューの方法を体得し、能力の向上を図る。

内容

1	情報サービス(レファレンスサービス)の意義とライブラリアンの活動
2	情報サービス(レファレンスサービス)のプロセス
3	レファレンスコレクションの活用
4	各種データベースの検索演習
5	外部情報機関の活用
6	レファレンス課題による検索実習(1)
7	検索結果の発表(1)
8	レファレンス課題による検索実習(2)
9	検索結果の発表(2)
10	レファレンス事例の収集・蓄積
11	レファレンス事例の分析
12	レファレンスインタビューの方法
13	レファレンスインタビューの実際 質問と回答
14	情報サービス(レファレンスサービス)と他の図書館サービス
15	情報サービスの評価

評価

演習レポートおよび発表40%、授業への参加意欲と態度20%、理解度確認のための論述レポート40%

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業の際に必要な応じて指示する。

科目名	情報サービス演習		
担当教員名	紺野 順子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書課程		
学 年	2,4	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選必
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

図書館における情報サービス(レファレンスサービス)は図書館員の専門性と力量が求められる業務である。その実務的能力育成のために講義科目「情報サービス」と演習科目「情報サービス演習」の2科目が設けられている。講義科目「情報サービス論」を修得の上での本講受講が望ましい。

科目の概要

情報サービスは、情報を求めている人々に直接行う個人的(人的)援助と、できるだけ情報を利用しやすくすることを目的とする利用援助に大別できる。本科目は、講義科目「情報サービス論」の学修をふまえ、その内容を具体的・実践的に展開し、情報サービス(レファレンスサービス)の実務的能力の修得をめざす。

学修目標

- ・情報サービスの重要性を理解する。
- ・参考質問の受付から回答・事後処理に至るプロセスを実践的に理解する。
- ・回答のための各種参考図書・各種データベースの特性と利用方法を理解する。
- ・情報探索能力の体得を図る。
- ・レファレンスインタビューの方法を体得し、能力の向上を図る。

内容

1	情報サービス(レファレンスサービス)の意義とライブラリアンの活動
2	情報サービス(レファレンスサービス)のプロセス
3	レファレンスコレクションの活用
4	各種データベースの検索演習
5	外部情報機関の活用
6	レファレンス課題による検索実習(1)
7	検索結果の発表(1)
8	レファレンス課題による検索実習(2)
9	検索結果の発表(2)
10	レファレンス事例の収集・蓄積
11	レファレンス事例の分析
12	レファレンスインタビューの方法
13	レファレンスインタビューの実際 質問と回答
14	情報サービス(レファレンスサービス)と他の図書館サービス
15	情報サービスの評価

評価

演習レポートおよび発表40%、授業への参加意欲と態度20%、理解度確認のための論述レポート40%

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業の際に必要な応じて指示する。

科目名	情報サービス演習		
担当教員名	紺野 順子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書課程		
学 年	2,4	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選必
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

図書館における情報サービス（レファレンスサービス）は図書館員の専門性と力量が求められる業務である。その実務的能力育成のために講義科目「情報サービス」と演習科目「情報サービス演習」の2科目が設けられている。講義科目「情報サービス論」を修得の上での本講受講が望ましい。

科目の概要

情報サービスは、情報を求めている人々に直接行う個人的（人的）援助と、できるだけ情報を利用しやすくすることを目的とする利用援助に大別できる。本科目は、講義科目「情報サービス論」の学修をふまえ、その内容を具体的・実践的に展開し、情報サービス（レファレンスサービス）の実務的能力の修得をめざす。

学修目標

- ・情報サービスの重要性を理解する。
- ・参考質問の受付から回答・事後処理に至るプロセスを実践的に理解する。
- ・回答のための各種参考図書・各種データベースの特性と利用方法を理解する。
- ・情報探索能力の体得を図る。
- ・レファレンスインタビューの方法を体得し、能力の向上を図る。

内容

1	情報サービス（レファレンスサービス）の意義とライブラリアンの活動
2	情報サービス（レファレンスサービス）のプロセス
3	レファレンスコレクションの活用
4	各種データベースの検索演習
5	外部情報機関の活用
6	レファレンス課題による検索実習（1）
7	検索結果の発表（1）
8	レファレンス課題による検索実習（2）
9	検索結果の発表（2）
10	レファレンス事例の収集・蓄積
11	レファレンス事例の分析
12	レファレンスインタビューの方法
13	レファレンスインタビューの実際 質問と回答
14	情報サービス（レファレンスサービス）と他の図書館サービス
15	情報サービスの評価

評価

演習レポートおよび発表40%、授業への参加意欲と態度20%、理解度確認のための論述レポート40%

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業の際に必要な応じて指示する。

科目名	情報サービス演習		
担当教員名	石川 敬史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書課程		
学 年	2,4	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選必
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

あらゆる人々の活動において多様な問題があり，その解決のためには的確な情報を収集し評価する必要がある。図書館においても，デジタル情報の増加に伴い，データベースから必要な情報を検索・提供する情報検索サービスの機会が増えている。本科目では，情報検索の基礎知識とともに，利用者が必要とする情報を的確に提供するための検索スキルと情報活用能力を演習形式で修得する。

科目の概要

図書館サービスにおいて必要とされる情報検索技術を習得するために，演習形式で情報検索を行なう。本科目では，情報検索の基礎や，各図書館作成の情報源ガイドを踏まえたうえで演習を行なう。演習では，図書・雑誌・新聞記事データベース，電子ジャーナルをはじめ，インターネット上の情報源を取り上げる。また，こうした情報の総合的な理解と実践力を習得するため，毎回演習問題を行なう。

学修目標：本科目は演習形式で行なうため，図書館における情報検索の理解とともに，実践的なスキルを身につけること

- ・図書館の様々なサービスにおける情報検索の意義と，データベース構築の社会的背景を理解する。
- ・図書館の蔵書検索，雑誌記事・新聞記事の検索をはじめ多様なデジタル情報から必要な情報を検索する技術を修得する。
- ・データベースの特徴や長短を理解し，必要な情報を的確に検索し利用者へ提供できる力を修得する。

内容

1	オリエンテーション：図書館における情報検索とは？
2	情報検索の概念，図書の検索（OPAC検索）
3	書誌ユーティリティー・総合目録の検索
4	情報検索の基礎・検索戦略，検索語の性質・選択
5	雑誌タイトルの検索と所蔵検索
6	雑誌記事・論文の検索
7	雑誌記事，論文入手までのプロセス（総合演習）
8	電子ジャーナルの検索
9	海外の図書，雑誌記事・論文の検索
10	新聞記事の検索
11	さまざまな情報源（1）：人物，企業，団体情報等の検索
12	さまざまな情報源（2）：法律，統計，科学技術情報等の検索
13	パスファインダーの制作（1）：図書館の事例，リンク集の事例
14	パスファインダーの制作（2）：発表
15	まとめ

評価

授業中・後の課題（50％），授業への参画・発表の姿勢（10％），試験（40％）とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

- ・大谷康晴『情報検索演習』日本図書館協会，2011（JLA図書館情報学テキストシリーズ ，6）

【参考書】

- ・伊藤民雄『インターネットで文献探索：2010年版』日本図書館協会，2010
- ・毛利和弘『文献調査法』第5版，日本図書館協会，2012
- ・時実象一ほか『新訂情報検索の知識と技術』情報科学技術協会，2010
- ・原田智子ほか『情報検索の基礎知識』新訂2版，情報科学技術協会，2011
- ・藤田節子『キーワード検索がわかる』筑摩書房，2007（ちくま新書，685）
- ・三輪眞木子『情報検索のスキル』中央公論新社，2003（中公新書，1714）

その他授業中に提示する。

科目名	情報サービス演習		
担当教員名	石川 敬史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書課程		
学 年	2,4	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選必
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

あらゆる人々の活動において多様な問題があり，その解決のためには的確な情報を収集し評価する必要がある。図書館においても，デジタル情報の増加に伴い，データベースから必要な情報を検索・提供する情報検索サービスの機会が増えている。本科目では，情報検索の基礎知識とともに，利用者が必要とする情報を的確に提供するための検索スキルと情報活用能力を演習形式で修得する。

科目の概要

図書館サービスにおいて必要とされる情報検索技術を習得するために，演習形式で情報検索を行なう。本科目では，情報検索の基礎や，各図書館作成の情報源ガイドを踏まえたうえで演習を行なう。演習では，図書・雑誌・新聞記事データベース，電子ジャーナルをはじめ，インターネット上の情報源を取り上げる。また，こうした情報の総合的な理解と実践力を習得するため，毎回演習問題を行なう。

学修目標：本科目は演習形式で行なうため，図書館における情報検索の理解とともに，実践的なスキルを身につけること

。

- ・図書館の様々なサービスにおける情報検索の意義と，データベース構築の社会的背景を理解する。
- ・図書館の蔵書検索，雑誌記事・新聞記事の検索をはじめ多様なデジタル情報から必要な情報を検索する技術を修得する。
- ・データベースの特徴や長短を理解し，必要な情報を的確に検索し利用者へ提供できる力を修得する。

内容

1	オリエンテーション：図書館における情報検索とは？
2	情報検索の概念，図書の検索（OPAC検索）
3	書誌ユーティリティ・総合目録の検索
4	情報検索の基礎・検索戦略，検索語の性質・選択
5	雑誌タイトルの検索と所蔵検索
6	雑誌記事・論文の検索
7	雑誌記事，論文入手までのプロセス（総合演習）
8	電子ジャーナルの検索
9	海外の図書，雑誌記事・論文の検索
10	新聞記事の検索
11	さまざまな情報源（1）：人物，企業，団体情報等の検索
12	さまざまな情報源（2）：法律，統計，科学技術情報等の検索
13	パスファインダーの制作（1）：図書館の事例，リンク集の事例
14	パスファインダーの制作（2）：発表
15	まとめ

評価

授業中・後の課題（50％），授業への参画・発表の姿勢（10％），試験（40％）とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

- ・大谷康晴『情報検索演習』日本図書館協会，2011（JLA図書館情報学テキストシリーズ ，6）

【参考書】

- ・伊藤民雄『インターネットで文献探索：2010年版』日本図書館協会，2010
- ・毛利和弘『文献調査法』第5版，日本図書館協会，2012
- ・時実象一ほか『新訂情報検索の知識と技術』情報科学技術協会，2010
- ・原田智子ほか『情報検索の基礎知識』新訂2版，情報科学技術協会，2011
- ・藤田節子『キーワード検索がわかる』筑摩書房，2007（ちくま新書，685）
- ・三輪眞木子『情報検索のスキル』中央公論新社，2003（中公新書，1714）

その他授業中に提示する。

科目名	情報サービス演習		
担当教員名	石川 敬史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書課程		
学 年	2,4	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選必
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

あらゆる人々の活動において多様な問題があり、その解決のためには的確な情報を収集し評価する必要がある。図書館においても、デジタル情報の増加に伴い、データベースから必要な情報を検索・提供する情報検索サービスの機会が増えている。本科目では、情報検索の基礎知識とともに、利用者が必要とする情報を的確に提供するための検索スキルと情報活用能力を演習形式で修得する。

科目の概要

図書館サービスにおいて必要とされる情報検索技術を習得するために、演習形式で情報検索を行なう。本科目では、情報検索の基礎や、各図書館作成の情報源ガイドを踏まえたうえで演習を行なう。演習では、図書・雑誌・新聞記事データベース、電子ジャーナルをはじめ、インターネット上の情報源を取り上げる。また、こうした情報の総合的な理解と実践力を習得するため、毎回演習問題を行なう。

学修目標：本科目は演習形式で行なうため、図書館における情報検索の理解とともに、実践的なスキルを身につけること

- ・図書館の様々なサービスにおける情報検索の意義と、データベース構築の社会的背景を理解する。
- ・図書館の蔵書検索、雑誌記事・新聞記事の検索をはじめ多様なデジタル情報から必要な情報を検索する技術を修得する。
- ・データベースの特徴や長短を理解し、必要な情報を的確に検索し利用者へ提供できる力を修得する。

内容

1	オリエンテーション：図書館における情報検索とは？
2	情報検索の概念，図書の検索（OPAC検索）
3	書誌ユーティリティー・総合目録の検索
4	情報検索の基礎・検索戦略，検索語の性質・選択
5	雑誌タイトルの検索と所蔵検索
6	雑誌記事・論文の検索
7	雑誌記事，論文入手までのプロセス（総合演習）
8	電子ジャーナルの検索
9	海外の図書，雑誌記事・論文の検索
10	新聞記事の検索
11	さまざまな情報源（1）：人物，企業，団体情報等の検索
12	さまざまな情報源（2）：法律，統計，科学技術情報等の検索
13	パスファインダーの制作（1）：図書館の事例，リンク集の事例
14	パスファインダーの制作（2）：発表
15	まとめ

評価

授業中・後の課題（50％），授業への参画・発表の姿勢（10％），試験（40％）とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

- ・大谷康晴『情報検索演習』日本図書館協会，2011（JLA図書館情報学テキストシリーズ ，6）

【参考書】

- ・伊藤民雄『インターネットで文献探索：2010年版』日本図書館協会，2010
- ・毛利和弘『文献調査法』第5版，日本図書館協会，2012
- ・時実象一ほか『新訂情報検索の知識と技術』情報科学技術協会，2010
- ・原田智子ほか『情報検索の基礎知識』新訂2版，情報科学技術協会，2011
- ・藤田節子『キーワード検索がわかる』筑摩書房，2007（ちくま新書，685）
- ・三輪眞木子『情報検索のスキル』中央公論新社，2003（中公新書，1714）

その他授業中に提示する。

科目名	情報サービス演習		
担当教員名	石川 敬史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書課程		
学 年	2,4	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選必
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

あらゆる人々の活動において多様な問題があり，その解決のためには的確な情報を収集し評価する必要がある。図書館においても，デジタル情報の増加に伴い，データベースから必要な情報を検索・提供する情報検索サービスの機会が増えている。本科目では，情報検索の基礎知識とともに，利用者が必要とする情報を的確に提供するための検索スキルと情報活用能力を演習形式で修得する。

科目の概要

図書館サービスにおいて必要とされる情報検索技術を習得するために，演習形式で情報検索を行なう。本科目では，情報検索の基礎や，各図書館作成の情報源ガイドを踏まえたうえで演習を行なう。演習では，図書・雑誌・新聞記事データベース，電子ジャーナルをはじめ，インターネット上の情報源を取り上げる。また，こうした情報の総合的な理解と実践力を習得するため，毎回演習問題を行なう。

学修目標：本科目は演習形式で行なうため，図書館における情報検索の理解とともに，実践的なスキルを身につけること

- ・図書館の様々なサービスにおける情報検索の意義と，データベース構築の社会的背景を理解する。
- ・図書館の蔵書検索，雑誌記事・新聞記事の検索をはじめ多様なデジタル情報から必要な情報を検索する技術を修得する。
- ・データベースの特徴や長短を理解し，必要な情報を的確に検索し利用者へ提供できる力を修得する。

内容

1	オリエンテーション：図書館における情報検索とは？
2	情報検索の概念，図書の検索（OPAC検索）
3	書誌ユーティリティー・総合目録の検索
4	情報検索の基礎・検索戦略，検索語の性質・選択
5	雑誌タイトルの検索と所蔵検索
6	雑誌記事・論文の検索
7	雑誌記事，論文入手までのプロセス（総合演習）
8	電子ジャーナルの検索
9	海外の図書，雑誌記事・論文の検索
10	新聞記事の検索
11	さまざまな情報源（1）：人物，企業，団体情報等の検索
12	さまざまな情報源（2）：法律，統計，科学技術情報等の検索
13	パスファインダーの制作（1）：図書館の事例，リンク集の事例
14	パスファインダーの制作（2）：発表
15	まとめ

評価

授業中・後の課題（50％），授業への参画・発表の姿勢（10％），試験（40％）とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

- ・大谷康晴『情報検索演習』日本図書館協会，2011（JLA図書館情報学テキストシリーズ ，6）

【参考書】

- ・伊藤民雄『インターネットで文献探索：2010年版』日本図書館協会，2010
- ・毛利和弘『文献調査法』第5版，日本図書館協会，2012
- ・時実象一ほか『新訂情報検索の知識と技術』情報科学技術協会，2010
- ・原田智子ほか『情報検索の基礎知識』新訂2版，情報科学技術協会，2011
- ・藤田節子『キーワード検索がわかる』筑摩書房，2007（ちくま新書，685）
- ・三輪眞木子『情報検索のスキル』中央公論新社，2003（中公新書，1714）

その他授業中に提示する。

科目名	図書館情報資源概論		
担当教員名	石川 敬史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書課程		
学 年	1,4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

図書館にはさまざまな資料が選択・収集・整理・保存(管理)され、各館独自のコレクションが形成され、利用者に情報が提供されている。本科目では、図書館コレクションを形成している図書館情報資料の種類、特質、流通等を広く概説し、図書館が情報資源を選択・収集・整理・保存(管理)する意義を考察し、利用者への提供方法をデザインする。

科目の概要

図書館には、どのような資料が収集され、どのような観点でコレクションが形成されているのか。そのためにも、図書館情報資源の特質を知り、図書館の館種や利用者のニーズも踏まえる必要がある。本科目では、図書館業務に必要な図書館情報資源の類型と特質、電子資料やネットワーク情報資源の動向を概説する。そして、コレクション形成を具体的に考え、利用者へ提供する方法をデザインする。

学修目標

授業時の講義内容の理解とともに、受講者同士の議論やミニワークショップを行ない、他の受講生の意見や考えを踏まえ、自らの意見や考えをまとめること。

- ・図書館資料の種類や特徴、電子資料やネットワーク情報資源の長短を理解する。これらを踏まえ、図書館のコレクション構築をまとめることができる。

- ・学問分野別(人文・科学技術等)に調査方法の違いを発見し、情報資源の特性を理解する。

内容

1	オリエンテーション:図書館資料から図書館情報資源へ
2	図書館資料の類型を考える:図書館資料の意義
3	図書館資料の種類と特質(1):印刷資料の特徴を考える
4	図書館資料の種類と特質(2):印刷資料の種類
5	図書館資料の種類と特質(3):非印刷資料の種類と特徴
6	電子資料・ネットワーク情報資源の種類と特質
7	人文・社会・自然科学分野の情報資源の特性
8	書店と図書館:出版・書店業界の現状
9	出版流通システム・再販制度
10	著作権を考える
11	図書館のコレクションをつくる(1):蔵書・コレクション構築の意義
12	図書館のコレクションをつくる(2):収集方針,選書,分担収集保存
13	図書館のコレクションをつくる(3):コレクション管理,除籍
14	図書館のコレクションをつくる(4):コレクション構築の評価
15	まとめ

評価

授業中・後の課題（30％），授業への参画・発表の姿勢（20％），試験（50％）とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

- ・馬場俊明『図書館情報資源概論』日本図書館協会，2012（JLA図書館情報学テキストシリーズ ， 8 ）

【参考書】

- ・三浦逸雄，根本彰『コレクションの形成と管理』雄山閣，1993（講座図書館の理論と実際， 2 ）
- ・『図書館の自由に関する宣言1979年改訂：解説』第2版，日本図書館協会，2004
- ・『公立図書館の任務と目標：解説』改訂版，日本図書館協会，2004
- ・安井一徳『図書館は本をどう選ぶか』勁草書房，2006（図書館の現場， 5 ）

その他，授業中に提示する。

科目名	情報資源組織論		
担当教員名	三澤 勝己		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書課程		
学 年	1,4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

書誌コントロール、書誌記述法、主題分析、メタデータ、書誌データの活用法などについて理解する。それにより図書館情報資源の組織化に関する理論と技術を理解することを目標とする。印刷資料・非印刷資料・電子資料及びネットワーク情報資源により構成される図書館情報資源の組織化について、その理論と技術を解説する。具体的には、書誌コントロール、書誌記述法、主題分析、メタデータ、書誌データの活用法などの角度から解説する。

内容

1	情報資源組織化の意義と理論
2	書誌コントロールと標準化
3	書誌記述法の概説と主要な書誌記述規則(1)
4	書誌記述法の概説と主要な書誌記述規則(2)
5	主題分析の意義と考え方
6	主題分析と分類法(1)
7	主題分析と分類法(2)
8	主題分析と索引法(1)
9	主題分析と索引法(2)
10	書誌情報の作成と流通
11	書誌情報の提供について
12	ネットワーク情報資源の組織化とメタデータ
13	多様な情報資源の組織化(1)
14	多様な情報資源の組織化(2)
15	まとめ

評価

レポート(10%)と筆記試験(80%)と通常の授業態度(10%)により評価を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書 田窪直規編『情報資源組織論』(現代図書館情報学シリーズ9、樹村房)

科目名	情報資源組織演習		
担当教員名	富田 美樹子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書課程		
学 年	2,4	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*,選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

現在、目録の対象が紙資料からあらゆる情報資源に拡がり、目録をめぐる状況は大きく変化している。図書館業務において、資料・情報の組織化は図書館サービスの業務基盤となるものである。また今日の情報化社会において、情報資源の適切な組織化と発信は、情報共有化の基盤でもある。

情報資源組織化の原則、規則は国際的に改訂が行われているが、『日本目録規則』の改訂はまだなので、本科目では現在の目録法と分類法によって資料組織化の基本を学び、メタデータの作成等によって新しい目録概念を学ぶことを目指す。

- ・「情報資源組織論」を履修してあること。
- ・数多くの演習を通して学習することで、ツールの構成と利用法を理解し、資料組織化業務の基礎を習得する。
- ・演習課題をきちんと提出し、よく復習すること。

内容

【受講制限】人数による受講制限を行うので、留意すること。

<前期：目録法>

導入、目録法の構造、目録規則の標準化、ISBD区切り記号法

記述総則、タイトルと責任表示

版、出版等

形態、シリーズ

注記、標準番号

標目、片かな表記法

典拠コントロール、書誌ユーティリティの利用

集中化・共同化による書誌データ作成

ネットワーク情報資源のメタデータ作成

まとめ

<後期：分類法>

主題アクセス、『日本十進分類法 (NDC) 』の構成

分類記号の付与、補助表、形式区分

地理区分、海洋区分

言語区分、言語共通区分、文学共通区分

分類規程

歴史・伝記・地理分野

言語分野、文学分野

社会科学分野

主題分析と統制語彙適用

総合演習問題

まとめ

評価

授業への取組み・演習課題3割、ペーパーテスト7割で評価を行い、60点以上を合格とする。
合格点に満たなかった場合は、「再試験」を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】吉田憲一編『資料組織演習』（JLA図書館情報学テキストシリーズ ; 10）日本図書館協会

【参考資料】必要に応じてプリントを配布する。

科目名	情報資源組織演習		
担当教員名	富田 美樹子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書課程		
学 年	2,4	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*,選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

現在、目録の対象が紙資料からあらゆる情報資源に拡がり、目録をめぐる状況は大きく変化している。図書館業務において、資料・情報の組織化は図書館サービスの業務基盤となるものである。また今日の情報化社会において、情報資源の適切な組織化と発信は、情報共有化の基盤でもある。

情報資源組織化の原則、規則は国際的に改訂が行われているが、『日本目録規則』の改訂はまだなので、本科目では現在の目録法と分類法によって資料組織化の基本を学び、メタデータの作成等によって新しい目録概念を学ぶことを目指す。

- ・「情報資源組織論」を履修してあること。
- ・数多くの演習を通して学習することで、ツールの構成と利用法を理解し、資料組織化業務の基礎を習得する。
- ・演習課題をきちんと提出し、よく復習すること。

内容

【受講制限】人数による受講制限を行うので、留意すること。

<前期：目録法>

導入、目録法の構造、目録規則の標準化、ISBD区切り記号法
 記述総則、タイトルと責任表示
 版、出版等
 形態、シリーズ
 注記、標準番号
 標目、片かな表記法
 典拠コントロール、書誌ユーティリティの利用
 集中化・共同化による書誌データ作成
 ネットワーク情報資源のメタデータ作成
 まとめ

<後期：分類法>

主題アクセス、『日本十進分類法 (NDC)』の構成
 分類記号の付与、補助表、形式区分
 地理区分、海洋区分
 言語区分、言語共通区分、文学共通区分
 分類規程
 歴史・伝記・地理分野
 言語分野、文学分野
 社会科学分野
 主題分析と統制語彙適用
 総合演習問題

まとめ

評価

授業への取組み・演習課題3割、ペーパーテスト7割で評価を行い、60点以上を合格とする。
合格点に満たなかった場合は、「再試験」を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】吉田憲一編『資料組織演習』（JLA図書館情報学テキストシリーズ ; 10）日本図書館協会

【参考資料】必要に応じてプリントを配布する。

科目名	図書館基礎特論		
担当教員名	石川 敬史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書課程		
学 年	1,4	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1,2
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：本科目は図書館司書課程における選択科目である（集中講義で開講する）。図書館の未来像，そして図書館を取り巻く「仕事」を受講生とともに考え，後期の授業につなぐ。

科目の概要：本科目では，図書館の理念と20年後のありたい姿（ビジョン）を構築するため，図書館の未来を創造する。さらに，図書館司書科目における基礎科目・図書館サービスに関する科目等を幅広く踏まえながら，図書館のビジョンを実現するための戦術（施策）を考え，発表する。そして，図書館を取り巻く「仕事」を受講生とともに考える。

学修目標：本科目は講義形式であるが，一部演習形式で行なう。図書館概論等を踏まえ，図書館のあるべき姿や実現するための方法を具体的に考え，発表する。

- ・企業や学校法人等の事例を踏まえ，理念やビジョンの必要性，意義，重要性を理解すること。
- ・環境変化や未来社会（人口，産業，技術等）を踏まえ，図書館の理念やビジョンを構築すること。
- ・ビジョンを実現するための施策を考え，受講生同士で発表すること。
- ・図書館を取り巻く「仕事」を具体的に考え，理解すること。

内容

1	オリエンテーション：図書館の理念・ミッション・ビジョンの事例
2	理念・ミッション・ビジョンとは何か？：必要性を考える
3	図書館のビジョンを考える（1）：未来社会を創造する
4	図書館のビジョンを考える（2）：未来の図書館の可能性を考える
5	図書館の理念・ビジョンの発表
6	図書館を取り巻く仕事（1）：女性司書の仕事
7	図書館を取り巻く仕事（2）：図書館関連企業の仕事
8	図書館を取り巻く仕事（3）：まとめ
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

評価

授業中の課題作成（50%），授業への参画・発表の姿勢（10%），最終レポート課題（40%）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 特に指定しない。授業中に資料を配布する。

【参考書】

- ・ジェームズ・C・コリンズ『ビジョナリーカンパニー』日経BP, 1995
- ・遠藤功『企業経営入門』日本経済新聞社, 2005
- ・足立光正『「企業理念」開発プロジェクト』ダイヤモンド社, 2004
- ・小川徹ほか『公共図書館サービス・運動の歴史2』日本図書館協会, 2006 (JLA図書館実践シリーズ, 5)
- ・『ソフトバンク新30年ビジョン』ソフトバンククリエイティブ, 2010
- ・Linda k.Wallace『Libraries, Mission, &Marketing』ALA, 2004

その他, 授業中に提示する。

科目名	図書館基礎特論		
担当教員名	紺野 順子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書課程		
学 年	1,4	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1,2
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

多様なメディアがいかに発達・普及しても、図書を中心とする印刷メディアが図書館にとって最も重要な資料であり、その中心であることに変わりない。利用者に対する「読書案内」は図書館おける最も中核的なサービスである。図書館員としての当然備えるべき「活字メディア」「読書」に関する基本的な知識の修得を図る。

科目の概要

マルチメディア時代にあっても「本を読まない図書館員」や「本の内容に興味をもたず、本を知らない図書館員」が図書館の業務を十分に遂行できることは絶対にあり得ない。本講では、課題と実習を中心に図書館員として活字メディアに対する認識と読書の重要性を実践的に体得させることを目指す。

学修目標

- 1) 図書館員としての立場から文字活字メディアの意義と特性を考える。
- 2) 近現代の日本文学作品を中心に読書体験を深める。
- 3) 図書館員として必要な読書技術と方法を体得する (書評・解題・ブックリスト等)
- 4) 「人と作品」を選定し、調査研究の方法を学ぶ。
- 5) その研究結果の発表・討議を通しコミュニケーション能力の向上を図る。

内容

1	マルチメディアの発達と活字メディア
2	図書館資料としての活字メディアの意義と特性
3	図書館員の専門性と読書
4	図書館員に求められる読書体験
5	図書館員に求められる読書の技術と方法 (書評・解題・ブックリスト)
6	図書館員に求められる読書の技術と方法 (読書会)
7	「人と作品」についての調査研究
8	「人と作品」についての調査研究結果の発表・討議
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

評価

授業進行に応じて提出を求める小レポート40%、発表の能力と討議への参加姿勢20%、課題「人と作品」制作40%

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業の際に必要な応じて指示する。

科目名	図書館サービス特論		
担当教員名	近藤 秀二		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書課程		
学 年	2,4	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1,2
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

今日の図書館には、利用者の多様化により求められるニーズも大きく変化しているため、利用者層を意識したサービスを展開していかなければならない。「図書館をどのように利用者に伝えるか」をテーマに、本科目では演習を中心に学習していく。

まず自らが利用できる公共図書館、学校図書館および大学図書館のサービスについてホームページなどで詳細にふれ理解していく。そして、実際に利用者に伝えたいサービスのリーフレットやパンフレットを作成しコンテンツを考えることにより、理解を深め、作成したコンテンツを実際にホームページに掲載していく。ホームページなど様々な表現方法により、図書館司書として利用者にサービスや利用方法などを伝えることができる実務能力を持てることを目標とする。また、可能な限り本学図書館で実際に活用している図書館システムも活用していく。

内容

1. オリエンテーション：図書館サービスについて
2. 公共図書館の様々なサービスを見る
3. 学校図書館支援サービスを見る
4. 大学図書館サービスを見る
5. 図書館案内の作成
6. ホームページに掲載するコンテンツを考える
7. ホームページに掲載するコンテンツを作成する
8. コンテンツの掲載とまとめ

評価

評価の前提として2 / 3以上の出席をすること（やむを得ない欠席の場合は必ず相談すること）。成績の評価は、通常の授業態度および授業中に提出する課題（50点）、レポートおよび演習に対する課題による評価（40点）、試験（10点）の結果で総合的に評価する。総合60点以上で合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 特になし(必要に応じ適宜プリント等配付します)

科目名	図書館サービス特論		
担当教員名	石川 敬史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書課程		
学 年	2,4	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1,2
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：本科目は図書館司書課程の選択科目である。図書館が実施する情報リテラシー教育，図書館利用教育を設計する。

科目の概要：図書館司書は，時代の変化を踏まえながら，図書館の有用性や情報の活用法について工夫して利用者へ伝えている。本科目では，「図書館をどのように伝えるか」をテーマに，図書館の情報リテラシー教育の意義，目的，評価と図書館員に求められるコミュニケーション力を概説する。さらに，これまでに図書館司書科目で学んだ情報検索の技法や図書館の役割等を踏まえながら，受講生が図書館ツアーと情報リテラシー教育プログラムを具体的に設計し，発表と評価を行なう。

学修目標：本科目は主に演習形式で行なう。

- ・図書館サービス概論や情報サービス論等を踏まえ，図書館を利用者に伝える手法，さらには効果的な情報リテラシー教育のプログラムを設計できること。
- ・図書館の情報リテラシー教育の意義や目的を理解すること。
- ・図書館の役割や情報の探し方について，効果的なシナリオを企画し，表現（発表）できること。
- ・情報リテラシー教育プログラムについて，実際にプレゼンテーション用ソフトを用いて作成すること。

内容

1	オリエンテーション：図書館をどのようにツタエルか？
2	情報リテラシー教育の意義・目的・評価：「図書館利用教育ガイドライン」の構成
3	情報リテラシー教育の事例：大学・公共・学校図書館のプログラム
4	ファシリテーション技法：思考の可視化
5	図書館ツアーの設計：シナリオの設計・発表
6	情報リテラシー教育プログラムの設計(1)：企画書・シナリオの設計
7	情報リテラシー教育プログラムの設計(2)：プレゼンテーションの作成・リハーサル・相互評価
8	情報リテラシー教育の評価：課題発表・まとめ
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

評価

授業中・後の課題（40％），授業への参画・発表の姿勢（20％），最終課題（40％）とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は特に指定しない。授業中に資料を配布する。

【参考書】下記以外は授業中に提示する。

- ・『図書館利用教育ガイドライン合冊版』日本図書館協会，2001
- ・『図書館利用教育ハンドブック：大学図書館版』日本図書館協会，2003
- ・『問いをつくるスパイラル』日本図書館協会，2011
- ・桑田てるみ『6プロセスで学ぶ中学生・高校生のための探究学習スキルワーク』全国学校図書館協議会，2012
- ・桑田てるみ『思考力の鍛え方』静岡学術出版，2010
- ・『図書館へ行こう！：図書館クイズ』国土社，2007
- ・森時彦『ファシリテーターの工具箱』ダイヤモンド社，2008

科目名	図書館情報資源特論		
担当教員名	石川 敬史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書課程		
学 年	2,4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	1,2
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：本科目は図書館司書課程の選択科目である。さまざまな図書館資料を視野に入れ「参加と協働の図書館」をテーマに講義と演習を行なう。

科目の概要：図書館には、多様な学問領域を背景に多様な種類の資料が所蔵されている。図書館司書は、常に幅広い主題分野にアンテナを張り、利用者の目線を意識して図書館サービスを創造する必要がある。本科目では、「図書館情報資源概論」「情報サービス演習」等を補い、図書館司書として必要な人文科学、社会科学、自然科学・技術等の幅広い分野における知の構造や資料の特性を踏まえ、公立図書館を事例に、資料の発信方法を具体的に構築する。

学修目標：授業時の講義内容の理解とともに、受講者同士の議論やミニワークショップを行ない、他の受講生の意見や考えを踏まえ、自らの意見や考えをまとめること。

- ・公共図書館でのレファレンスサービス，大学・専門図書館における研究支援のために不可欠な各分野で使用される代表的な資料，情報源を説明できる。
- ・多様な図書館資料と利用者とを結びつける手法を具体的に考え，利用者の目線に立ち表現できる。

内容

1	オリエンテーション：図書館資料の種類と特徴
2	さまざまな学問分野と専門資料：テーマの発見と資料選定
3	資料展示の方法と制作（1）：POP制作の基礎，さまざまな方法
4	資料展示の方法と制作（2）：利用者の視点，著作者の視点
5	資料展示の方法と制作（3）：発表・展示作業
6	情報利用の特性（1）：人文・社会科学分野
7	情報利用の特性（2）：自然科学・技術分野
8	まとめ
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

評価

授業中・後の課題（40％），授業への参画・発表の姿勢（20％），最終課題（40％）とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

教科書は特に指定しない。授業中に資料を配布する。

【参考書】

- ・三浦逸雄，野末俊比彦『専門資料論』新訂版，日本図書館協会，2010
- ・『図書館広報実践ハンドブック』日本図書館協会，2002
- ・丸本郁子『図書館を演出する』メディアアイランド，2010
- ・『ライブラリー・リソース・ガイド』創刊号，2012

その他，授業時に提示する。

科目名	図書・図書館史		
担当教員名	富田 美樹子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書課程		
学 年	1,4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

司書課程を学び始める学生に、人類の叡智はどのように表現され蓄積されてきたかを学ぶことで、人類の素晴らしさを感じ取ってもらいたい。

図書館は、メディアの進歩と社会との関わりのなかで発展し、形態を変えてきた。現在、図書館は大きな変革期にあるが、原点に立ち返り歴史を学ぶことで、現代社会において図書館が果たすべき機能と役割についても考えるきっかけとする。

- ・集中講義なので、各時間ごとに学んだ内容をまとめ提出することで、学習内容の確認を行う。
- ・一気に進むので、予め教科書を一読しておくこと。

内容

導入、文字及び記録媒体・印刷技術の歴史

古代の図書館：図書館の起源、アレクサンドリア図書館、古代ローマの図書館

中世の図書館：修道院図書館、大学図書館

近世の図書館（15～16世紀）：グーテンベルクの活版印刷術、ルネサンス時代の図書館

近世の図書館（17～18世紀）：啓蒙の時代、図書館思想の登場、大衆読書の時代

近代の図書館（19世紀）：貸本屋・会員制図書館、公共図書館、国立図書館、各館種・機能の確立

20世紀の図書館：文献生産量の増大化、国内・国際図書館協力、情報化社会の到来、電子図書館

～ 日本の図書館の歴史：古代の図書館～現代の図書館

まとめ （時間の都合がつけば印刷の歴史を見学）

評価

学習内容のまとめ（提出物）を3割、試験を7割で評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

寺田光孝編『図書及び図書館史』（新・図書館学シリーズ 12）樹村房

プリント（授業のレジュメ）を毎回配布する。

科目名	児童サービス論		
担当教員名	紺野 順子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書課程		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

司書課程には「図書館サービス」に関する科目が4科目ある。その中で本講は利用対象を児童（乳幼児から中学高校生のヤングアダルトまで）に限定し、そのサービスのあり方等について修得する。

科目の概要

公共図書館における児童サービスは、多くの場合子どもが初めて受ける図書館サービスであり、成人を対象にしたサービスとは異なる固有の使命と方法をもっている。また、中学・高校の世代に対する図書館サービスは、児童サービスに比べると、まだまだ未発達であり、児童と成人の中間にあって置き去りにされているきらいがある。本講では児童サービス、およびヤングアダルトサービスのもつ重要性について認識を深め、固有の活動内容、方法についての知識と技術を体得することを目指す。

学修目標

- ・児童（乳幼児からヤングアダルトまで）サービスの成立過程及びその意義・役割・特性を理解する。
- ・児童資料の種類とその特性を理解する。
- ・児童図書館の運営・施設・設備のあり方を学ぶ。
- ・児童サービスの実務・技術・方法を体得する。
- ・乳幼児サービス・ヤングアダルトサービスの意義と具体的な展開方法を体得する。
- ・児童サービス（乳幼児サービス・ヤングアダルトサービス含む）の課題を考える。

内容

1	児童サービスの意義
2	児童図書館員の役割
3	児童サービスの成立と変遷
4	児童サービスの現在
5	児童資料の種類と特性
6	児童資料の収集と管理
7	児童図書館の運営
8	児童図書館施設・設備
9	児童サービスの内容
10	児童サービスの実務
11	児童サービスの技術と方法
12	乳幼児サービスの意義と展開（ブックスタートを含む）
13	ヤングアダルトサービスの意義と展開
14	各種諸機関（地域の他の図書館・文庫・学校図書館等）との連携・協力のあり方
15	児童サービス（乳幼児サービス・ヤングアダルトサービス含む）の課題

評価

授業の進行に応じて提出を求める小レポート40%、授業への参加姿勢とその態度20%、課題「理想の児童図書館」制作40%

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業の際に必要な応じて指示する。

科目名	児童サービス論		
担当教員名	皆川 美恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 司書課程		
学 年	1,4	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目のねらい

図書館司書資格を取得したい学生に向けての必修科目である。公共図書館に不可欠なサービスとして位置づいている児童図書館サービスについて解説する。

児童図書館サービスとは、児童奉仕とも呼ばれ、子どもを対象として、児童図書館の目的を達成する為に行われる仕事全般を指している。子どもの利用者に向かって直接行うサービスのみでなく、管理運営、施設の環境整備、資料の選択収集、さまざまなサービスの企画・遂行、館外との協力・連携、さらにこれらサービスの広報活動までが含まれる。以上のような仕事を理解することをねらいとする。

科目の概要・到達目標

子どもへの図書サービスの特質性、重要性を、子どもの発達ならびに学習の見地から解説する。乳幼児に向けたブック・スタートから、思春期のヤング・アダルトに向けたサービスまで、児童資料を紹介しながら具体的に言及していく。また、子どもの年齢や興味関心による児童資料の提供の仕方を、紙芝居、読み語り、ブック・トークなどの演習を交えて指導する。学校教育場面のみならず家庭や社会生活場面での子どもと本との関わり合い方を視野に入れて、読書による人間教育について深く洞察することができる専門性を伝達したい。

内容

授業計画

- 第1回 子どもにとって読書とは何か
- 第2回 子どもの認知発達と読書能力
- 第3回 子どもの読書活動の歴史(児童図書館の歴史)
- 第4回 児童図書館の見学
- 第5回 児童資料の種類と選書規準
- 第6回 紙芝居の選び方について
- 第7回 紙芝居の演じ方
- 第8回 絵本の選書について
- 第9回 絵本の読み方
- 第10回 (狭義の)児童文学の選書について
- 第11回 読み語り、ブック・トーク、ストーリー・テリングの仕方
- 第12回 ヤング・アダルト文学の選書について
- 第13回 学習支援としての児童図書館サービス
- 第14回 児童図書館サービスの意義と実際の活動(地域・家庭・学校との連携・協力など)
- 第15回 児童図書館員の専門性

評価

授業への取り組み方 20%、レポート成績 80% で評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『児童サービス論』 高山正也・植松貞夫 監修 樹村房